

まちの史跡めぐり……(104)

町文化財専門委員 石瀧 豊美

江戸時代へようこそ(15)

= 村の一年(続き) =

【九月】
堤水のためこみ
年内より手ばかりなく手配すべきこと。ただし、漏水などないよう、念の上にも念を入れること、とされています。農閑期こそ、ため池の修復の期間であり、それが終わると、水をためて翌年の田植えに備えました。

町内のため池の数は、明治初年の『福岡県地理全誌』で見ると次の通りです。

佐谷村	一
上須恵村	八
須恵村	一九
新原村	四
旅石村	五
植木村	一〇
本合村	六
合計	五三

この内、築造年のわかっていないのは一九。築造年不明が多いのですが、不明なのはおそらく、記録が残らないほど古い時代に作られたものだと、いうことを意味する、と考えられます。

次に、判明する分について築造年順に並べてみると次の通りです。築立年・所在地(村名)の順に記しています。地名の読みは参考までに付けていますが、間違っているかもしれません。

柿本(本合)	一六三四
仏道(新原)	一六六一
榎木原(上須恵)	一七一六
伊勢山(上須恵)	一七二七
烏帽子形(須恵)	一七四〇
笹原(上須恵)	一七四一
南面里後(上須恵)	一七四六
奈起田(須恵)	一七七二
同	同
大谷(植木)	一七七七
大塚(植木)	一七九五
永谷(本合)	一七九五
芋堀(旅石)	一七九九
小鳥越(上須恵)	一八〇六
金堀谷(上須恵)	一八二三
草場(須恵)	一八二六
同	同
藤浦(須恵)	一八二七
池下(新原)	一八二七
深田浦(上須恵)	一八五三
長礼(須恵)	一八五七

こうして見ると、一七世紀に二個、一八世紀に一〇個、一九世紀に七個となり、江戸時代を通じてため池の築造が盛んに行われていることがわかります。

農業用水はどこから水を引くかで、天水請け、堤掛かり、井手掛かりなどに分かれます。天水請けは外部から水を引かず、雨が降ります。堤掛かりはため池、井手掛かりは川の堰から取水しました。

井手はたとえば佐谷村の場合、寛政五年(一七九三)の村明細帳で三七カ所をあげています。本川筋に一三カ所、割石川筋に三カ所、佐谷川筋に二カ所。井手にはその都度、竹の笹や土の俵などでせき止める方法と、木や石で頑丈な構造にする方法とがありました。その維持・管理だけでもたいへんだったことでしょう。

ため池や井手から田までは、溝(水路)や樋で水を流します。こうした用水施設の維持管理は個人では手が回らず、権利も複雑に絡んでいます。それで、庄屋の指揮のもと、村全体で工事や管理に取り組んだのです。

県道筑紫野・古賀線を門松方面に進むと、右手に新大間池が見えます。道をはさんで反対側には古大間池があります。古大間池は粕屋町、新大間池は須恵町・粕屋町にまたがっていて、一部が篠栗町にかかっています。

新大間池の水は若杉山中腹から一部、地下水路で引かれています。いったん新大間池にたまった水を、さらに駕与丁池へとためるのです。この水路を仕掛溝と言います。文化十二年(一八一五)に着工、文政七年(一八二四)に完成しました。水路は全体でおよそ三・六キロ。その内、巨岩に通したトンネル部分はおよそ九メートルありました。

長い歳月を要した難工事でしたが、戸原村の大庄屋長平のねばりつよい指導と、戸原村出身の博多の豪商立石又左衛門が提供した巨額の工事費、それに工事に携わった農民たちの努力が、工事を完成に導いたのでした。

風景の中に溶け込んでいて、ふつうは意識しないことですが、どのため池も、農民みずからが作り上げ、何百年も守ってきたものだということは、忘れることはできません。

久我記念美術館

12月企画展 10日(土)~25日(日)
(月曜休館・入館無料)

堀澤大吉展

“月はうさぎの夢を見る”

12月の久我記念美術館は、10日から25日まで、堀澤大吉展と、まなビック(生涯学習講座)の「色鉛筆画教室」展を開催します。



堀澤さんは、1955生まれ。九州産業大学美術学部で彫刻科を専攻。アトリエは新宮町にあり、現在はアクリル画と立体作品づくりに傾倒しているアーティストです。

今回は、F3(27・3号×22・0号)から12号までのアクリル画40点と、立体作品(オブジェ)約7点が展示されます。絵画のテーマは「夜は明るく美しい」、どんな感性が響くのか楽しみです。メッセージが寄せられましたので紹介します。

「まなビック色鉛筆画教室」展

赤・青・黄の三色で広がる色鉛筆の世界

講師からのメッセージ
「昨年に引き続き、まなビック色鉛筆画教室の、学人(まなびと)たちの世界にひとつだけ「オンリーワン」の絵が仕上がりました。花や野菜など身近にあるものの、美しさに改めて心を動かされ、赤・青・黄の三色の色鉛筆で表現しました。

色鉛筆で感動を伝えることは中々思うようにはいきませんが、描いているときは楽しくて夢中でした。楽しい色鉛筆の空間を感じにご来館いただければ、とてもうれしく思います。」

まなビック色鉛筆画教室
講師 案浦 博子

作家からのメッセージ

「月の光に照らし出された風景の中で、実在する人物をモデルとした「ウサギ」たちに、人の心の喜び・幸せ・悲しみ・せつなさ、そしてそれぞれの想いを、移りゆく季節の中で演じさせている。そんな誠に応じないほど自分勝手な私的心象風景である。」



1981年	「画廊さかもと」にて二人展
1983年	「 」にて個展
1986年	「 」にて個展
2001年	「ギャラリーだいせん」にて個展
2003年	「花立花特設ギャラリー」にて個展

11月の企画展

ガラスと布のハーモニー
塚原瑜伽嗣・大石由美子 2人展
11月8日(火)~27日(日)月曜休館・入場無料)

スタンドグラスとパッチワークの実演会
とき 11月20日(日) 14:00~17:00